

**令和7年度第5回寝屋川市地域福祉計画
推進委員会 会議要旨**

会議の名称	令和7年度第5回寝屋川市地域福祉計画推進委員会
開催日時	令和8年3月17日（火） 午後2時00分から午後3時15分まで
開催場所	寝屋川市立保健福祉センター5階 会議室1・2
出席委員	岡田委員長、伊与田副委員長、河瀬委員、宮本委員、近藤委員、田中委員、朽見委員、鈴木委員、松下委員、丸山委員
欠席委員	木下委員、林堂委員
案件	1 第5次寝屋川市地域福祉計画素案に係るパブリック・コメント結果について 2 第5次寝屋川市地域福祉計画（最終版）について
会議の公開、非公開の別及び非公開の理由	公開
傍聴者の数	1名
所管部署 (事務局)	福祉部 福祉総務課

事務局	<p>事務局より第5次寝屋川市地域福祉計画素案に係るパブリック・コメント結果について資料説明</p> <p>次第1について説明（資料1）</p>
委員長	<p>文言修正と用語追加については対応し、社会資源についての追記、社協の位置づけについては特定の団体のみを強調するものではないという趣旨から修正を見送ったこと、子育てのデータについては他の計画等で確認できる状況にあることから現状のままとしたことなどが報告された。</p> <p>これらについて意見はあるだろうか。</p>
委員	<p>パブリック・コメントを公表するにあたり、視覚障害のある方に配慮した方法、点字や音声テープの貸し出し等を取られたか確認したい。</p>
事務局	<p>今回のパブリック・コメントに関しては、点字やテープでの提供は行っていない。</p>
委員	<p>次回から可能な範囲で結構なので工夫をしていただきたい。市のIT化が進む中、タッチパネル等が視覚障害者には使いづらいという意見をいただいている。</p> <p>本計画でも情報発信の充実を柱に掲げているため、障害のある人へも提供してもらいやすい状況を作っていただきたい。</p>
委員長	<p>アクセシビリティの確保としての意見はもつともだ。</p> <p>テキストデータであれば読み上げソフトで音声データに変換できる部分もあるため、当事者の意見を聴取しながら情報提供のあり方を考えていただきたい。</p>

事務局	<p>事務局より第5次寝屋川市地域福祉計画（最終版）について資料説明</p> <p>次第2について説明（資料2、資料2-1の説明）</p>
委員長	<p>全体的に体裁が整えられ読みやすくなっている。</p> <p>本委員会で確認後、市民へ公表し運用していくことになるが、今後の実施に向けて気をつけてほしい点などについて意見はあるだろうか。</p>
委員	<p>計画がすごく見やすくなったと思う。</p> <p>一番気になるのは重層的支援体制の整備についてだ。地域の家庭力が弱まり、支援学級を利用していても不登校になる子どもが増えるなど、さまざまな背景があるとは思いますが孤立化している方が多いのではないか。こうした部分をどう支援していくかが課題だと思う。</p> <p>また、障害に関して最近特に思うのは、すごく便利になりいろんな機器が出て来た一方で、便利になるほど障害のある人には不便になっている面もあるということだ。マイナンバーカード等のIT化が進む一方で、知的障害のある人には管理が難しくハードルが高いと感じている。制度の狭間で落ちこぼれる人がないように、情報提供や発信に力を入れていただきたい。</p>
委員長	<p>援助を受けるための力、いわゆる受援力がない、助けてと声をあげられない人が増え孤立化している。</p> <p>孤立化は本人の問題だけでなく環境やコミュニティの課題もあるため、この計画の取り組みを活かして課題を軽減していくことが求められる。制度の狭間の課題への対応も重層的支援の実装で目指されているため、委員各位にも引き続きチェックをお願いしたい。</p>

委員	<p>市民後見人について、候補者への研修や名簿作り等の体制構築はいつ頃を予定しているのか。また、重層的支援体制や中核機関について、医療や介護の最前線、病院や包括、介護サービス事業者などからいち早く相談できるよう、関係機関へ仕組みの周知徹底と連携強化をお願いしたい。</p>
事務局	<p>市民後見人については、令和8年度から相談員を設置する形で進め、関係機関との連携や仕組みの説明会を行っていく予定だ。重層的支援についても予防的観点で中核機関の会議等でひろい上げていくことを考えている。</p>
委員長	<p>中核機関があっても情報がしっかり届いていなければ意味がないので、どのルートからでも繋がるような情報共有や理解の推進の徹底をお願いします。</p>
委員	<p>保育園・こども園の視点から俯瞰して見てみると、地域づくりに向けた支援の寄与できる割合が非常に薄く、無力感を感じる。保護者には一番接している立場として何かできることは無いだろうか。</p> <p>誰でも通園制度が始まるが、全児童対象の制度が始まっても自らヘルプを出せない家庭をどう支えるかが課題だと思う。スマイルサポーターも形骸化していると思うし、個別には良い取り組みがあっても全体としてのまとまりに欠けるのが保育園側の政策だと感じる。私たちも社会資源の一つであるため、福祉的側面からも寄与できる形を今後のP D C Aの中で定義し検討していければと思う。</p> <p>私たち認定こども園や保育園は社会福祉法人立であるにもかかわらず、教育の側面が強くなり、福祉的割合が少なくなっていると感じており、今後は福祉にも寄与できればと思う。</p>

委員長	<p>保育の現場は一番困っている保護者や子どもに接する最前線にいる。そうした場が社会資源の一つとして活動できるよう、積極的な機会を設けていただきたい。</p>
委員	<p>ネットワークづくりについてだが、やはり担い手がいないのが実情だ。ボランティアも高齢化しており、自治会長からもなり手が無いとの声が寄せられている。</p> <p>子ども食堂を通じて若い世代のお母さんたちを引っ張りたいと考えているがまだこの先がどうなるか分からず、今後どうしていけばよいか悩んでいる。</p>
委員	<p>昨日、社協の取り組みでシニア向けにボランティア紹介があり、園芸福祉ボランティアも参加した。予想以上に18人も集まり興味を持っていただけた。こうした取り組みが続けば、高齢者も希望を持って過ごせると思う。社協の情報発信力に感謝しつつ、次世代の担い手不足は責任者として重い課題だと感じている。</p>
委員長	<p>社協の紹介から人の繋がりが作られていくのは貴重な取り組みだ。</p>
委員	<p>計画に高齢者に関する記述が足りないと感じるため、もう少し高齢者について厚く書いてほしいところだ。</p>
委員	<p>担い手不足が一番の課題で、なかなか繋がりができていかない。また、コロナ以降、近所付き合いが減って情報が入らなくなり、災害時の対応に不安がある。普段からお互いに気にかけておくことが必要だ。いざという時のために自治会への加入が必要だが、特に男性の参加率が非常に少ない。成功事例があればぜひ教えていただきたい。</p>

委員	<p>高齢者にとってマイナンバーカードなどの管理や手続きは難しいのが実情だ。民生委員もなり手不足や仕事との両立が課題だが、グループで動くなどバックアップを充実することで等で新人育成を進めていきたいと考えている。</p> <p>また、ボランティアの高齢化が話題になるが、ボランティアに年齢は関係なく、できることをやればいいと周囲に伝えている。</p> <p>どこにも出ない人をどう活動に引っ張り出すかが今後の課題だと思う。</p>
委員長	<p>目標に向かって地道に積み重ねておられる取り組みの紹介に頭が下がる思いだ。</p>
副委員長	<p>内科医の立場から、元気な高齢者も多いが、一方で介護申請をされる方が非常に増えている。10年ほどある平均寿命と健康寿命の差をいかに縮めるかが重要なので、今後の計画にその視点を入れていただきたい。</p> <p>また、人口減少社会で寝屋川市も2040年に20万人を切るようで、人口が減るフェーズの中、従来通りの活動を続けるのではなく、限られた人数でどのように活動していくかも考えていく必要があると思う。</p>
事務局	<p>今後のスケジュールについて案内</p> <p style="text-align: right;">閉会</p>